

京都・長岡宮・京跡

- 1 所在地 向日市鶏冠井町・森本町
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)十月～七九年一月
- 3 発掘機関 向日市教育委員会
- 4 発掘担当者 山中章
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の時代 八世紀末
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

(一)長岡京跡左京第22次調査

本調査地は、長岡京左京二条二坊五・六町にあたる地点で、調査は、一九七八年十一月十七日から一九七九年一月三十一日まで実施した。その結果、長岡京時代の三本の溝と二軒の建物、一基の井戸を検出した。木簡を出土した溝は、左京第13次調査(一九七七)で検出したSD一三〇一の東30mの延長部にあたる。

今回も木簡の出土した溝SD一三〇一は、三条大路南側溝から中心距離で北へ約七三八mの地点に位置し、左京二条二坊六町と五町の間を東西に、西から東へ流れる幅2.9m～4.0m、深さ0.5mの溝である。

溝中には、二個所に橋状遺構SX二二〇九・SX二二一〇がある。第13次調査では、延暦六年の紀年銘のある木簡を出土する素掘

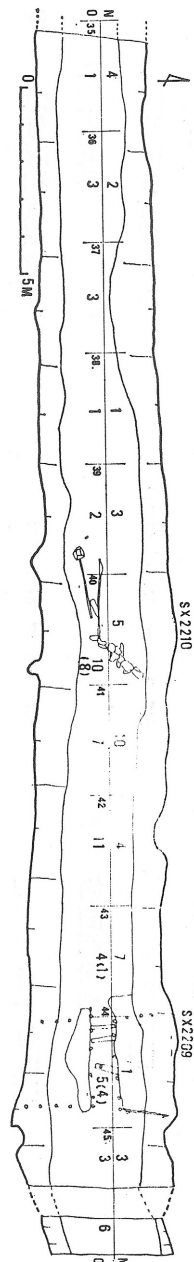
りの溝(第Ⅰ期)から、同八・九年の紀年銘のある木簡を出土する側板を持つ溝(第Ⅱ期)へと造りかえられたことが判明しているが、今回は、この側板を持つ溝を検出することができず、代わりにこの橋状遺構を検出したものである。

木簡は、この橋状遺構のものを含めて、合計一・三点出土した。(一九七九年二月七日から三月九日までの立合調査で、さらにこの東30mの地点から7点出土した。)

木簡は溝全域から出土しているがⅠ・Ⅱ層、特に、両橋状遺構の間からは77点(72%)が出土した。内、Ⅰ・Ⅱ層からは55点(52%)が出土しており、土器・木器等もこの付近から数多く出土することから、溝を廃棄する時、この橋状遺構から一括して投棄されたことがうかがえる。

溝の埋土は基本的に四層にわかれる。このうちⅠ・Ⅱ層が第13次調査での第Ⅱ期、Ⅲ・Ⅳ層が第Ⅰ期に対応している。層別別の出土数は、第Ⅱ期(Ⅰ・Ⅱ層)で81点(72%)、第Ⅰ期(Ⅲ・Ⅳ層)で29点(26%)である。第13次調査では、第Ⅰ期が10点(4%)と少ないのに比較すると、やや増加しているものの、今回もそのほとんどが、溝を埋立てるために廃棄されたものであることがわかる。

その他、形態の上では、今回出土の木簡は遺存状態が特に悪く、完形品の占める割合が13%と低く、そのほとんどが破損した断片(〇八一型式)であることに特徴がある(第13次調査では34%)。尚、同時に大量の墨書土器が出土したが、その主なものは、「大膳」「外記」



第1図
SD1301 地区別木
簡出土状況図
大数字；出土点数
小数字；地区割
アルファベット
()はSX2209・2210
出土数

「侍従」「秦」「史」「秋継」などである。

(一)長岡宮跡第87次調査

本調査地は、長岡宮の東辺北部、平安宮大内裏図では左近衛府にあたる地点で、調査は一九七八年十月二十三日から十二月四日まで実施した。

木簡は、調査地中央を北西から南東へ流れる幅10.0m、深さ0.6mの溝中から検出された。(本調査地の北西二五〇mの地点では、長岡京初見の木簡一点が一九七〇年出土している。)溝は、基本的に、褐色砂層(I層)、褐色砂礫層(II層)、暗青灰色砂礫層(III層)の三層にわかれるが、木簡は、長岡京時代の遺物を出す第II層から二点出土した。1は籤の完形品で丁寧なつくりをしており、字も楷書の美しいものである。中央上端部より5mmの所に2.5mmの穴があげられている。他の一点は断片で判読できないが、同じく第II層から出土した。尚、本調査地でも墨書土器が出土し、「官」「大」「五」「百」「三」などがみられる。

8 木簡の釈文・内容

長岡京跡左京第22次調査木簡

- | | | | | | | | |
|-----|---|--------|------------------|-----|------|-----|----------|
| (1) | 一斗四升 | 〔飯六升カ〕 | (84) × (21) × 3 | 表 | 019 | 235 | 層位 型式 整理 |
| (2) | 〔 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 茨田清成 | 〔里カ黒カ〕 | 210 × (13) × 3 | 表 | 011 | 236 | |
| (3) | 〔三月十九日 <input type="checkbox"/> 米五斗 | 〔廣公安カ〕 | 130 × 12 × 4 | I | 051 | 241 | |
| (4) | 立 | | (46) × (9) × 4 | II | (81) | 243 | |
| (5) | 〔 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 戸主尾張諸上十一文 | 〔長銭カ〕 | 278 × (18) × 2.5 | I | 011 | 245 | |
| (6) | 縫殿寮 | 〔習書〕 | (60) × 17 × 4 | III | 019 | 249 | |
| (7) | 〔難波佐婆部令 <input type="checkbox"/> × | | (48) × 15 × 2 | I | 039 | 250 | |
| (8) | 〔九月四日大 <input type="checkbox"/> × | | (45) × (9) × 0.5 | I | 091 | 251 | |
| (9) | 十月 <input type="checkbox"/> × | | (40) × 17 × 1 | III | 091 | 253 | |

- (10) $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \right] \times$ (坂カ) 田郡 (39) × 25 × 3 III 019 255
- (11) \square 有件大 (河カ) (87) × (24) × 3 I 081 256
- (12) $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ (穀カ) (72) × 24 × 3 I 081 257
- (13) $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ (月八日輕間嶋カ) (156) × 11 × 3 I 081 258
- (14) 身官 (54) × 14 × 3 I 019 260
- (15) $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \end{array} \right]$ (表裏とも禾・木・寸・山の旁偏) (172) × (7) × 4 I 081 264
- (16) $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \end{array} \right]$ (表裏とも禾・月等の旁偏) (186) × (7) × 4 II 081 265
- (17) $\left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ (主カ) 三福 (74) × 15 × 3 II 033 267
- (18) 郡 (符カ) 采女郷丈部家 × (99) × (30) × 5 III 019 270
- (19) $\cdot \times \square$ 取廣岡 (67) × 29 × 6 I 019 272
- (20) $\cdot \times$ 子米五斗 (斗カ) $\left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ (120) × 19 × 4 I 039 273
- (21) \cdot 「伊与国和氣郡倉橋」 (123) × 22 × 3 I 051 275
- (22) \cdot 「人五斗」 (117) × (16) × 3 I 081 276
- (23) \cdot $\left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ 小 (矢カ) 六十隻 (136) × 25 × 4 I 033 277
- (24) $\cdot \left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \end{array} \right] \times$ 朝 × (181) × (18) × 7 I 019 278
- (25) \cdot 左衛 × $\left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ 三斗 七二 (189) × 20 × 3 I 031 279
- (26) 五合 (57) × 17 × 0.2 I 091 281
- (27) $\cdot \left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ 戸主三家大 (75) × 23 × 3 III 039 282
- (28) $\cdot \left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ 三家 × $\left[\begin{array}{c} \square \\ \square \end{array} \right]$ 風早郷 白米五斗 (160) × 28 × 3 I 011 283
- (29) 「請書手飯四升十一月十二日輕間嶋」 252 × (10) × 4 II 019 285
- (30) $\times \square$ 子 庸 (75) × (9) × 3 II 081 286
- (31) $\left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ 雑大 (126) × 18 × 3 I 033 0288
- (32) $\cdot \left[\begin{array}{c} \vee \\ \square \\ \square \\ \square \\ \square \end{array} \right]$ 下郷戸主 (郡カ) 長 承 (194) × 18 × 4 II 059 0289
- (33) \cdot 粉酒酒粉酒 (133) × 徑18 III 065 0290
- (34) $\cdot \times \square$ 嶋足調塩三斗 (100) × 20 × 4 II 019 291

(61) □
△物

(46) × (11) II 091 O 353
(63) × (23) II 091 O 354

(注) ○はSX2210、◎はSX2209、△は立合調査、表は表採を示す

層位	遺構	SD1301	SX2209	SX2210	立合	計
I	褐色粘質土	50	0	2	3	55
II	淡灰褐色粘質土	17	3	3	3	26
III	暗青灰色粘質土	20	2	3	0	25
IV	褐色砂層	4	0	0	0	4
	表採	(2)	—	—	(1)	(3)
	計	91 (2)	5	8	6 (1)	110 (3)

左京第22次調査〈層位・遺構別木簡出土数一覧表〉

長岡宮跡第87次出土木簡

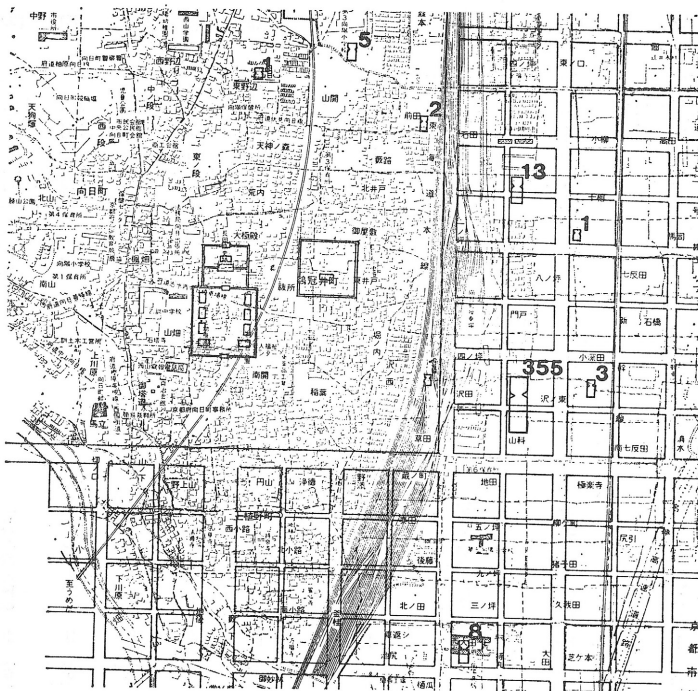
「人物志三卷」

48 × 19 × 4 II 022

(山中章)

9 関係文献

福山敏男「長岡宮跡出土木牌の『人物志三卷』について」
『日本歴史』三七二号一九七九年



第2図 長岡宮・京木簡出土地点図